第３回童話村たきのうえ
読書感想文・感想画コンクール

栄えある小檜山博賞は
滝高３年　中山莉沙さんが
受賞しました！

小学生から高校生までを対象に今年で3回目を迎えた読書感想文・感想画コンクール。今年は165作品の応募がありました。

受賞作品は左記のとおりです。

【小檜山博賞】
中山莉沙さん（滝高3）

【小学校低学年の部】感想画
最優秀賞　中村彩人さん（濁小2）
優秀賞　西田芽生さん（濁小2）
佳作　金子侑來さん（滝小2）

【小学校中学年の部】感想文
最優秀賞　乙坂柚菜さん（滝小3）
優秀賞　谷脇陵太さん（滝小4）
佳作　三島明奈さん（滝小3）

【小学校高学年の部】感想文
最優秀賞　張間琴乃さん（滝小6）
優秀賞　佐藤陽依さん（滝小5）
佳作　小森結斗さん（滝小5）

【中学生の部】感想文
最優秀賞　水野勝太さん（滝中3）
優秀賞　西遥歌さん（滝中2）
佳作　中村雪乃さん（滝中2）

【高校生の部】感想文
最優秀賞　中山莉沙さん（滝高3）
優秀賞　菅原愛里さん（滝高3）
佳作　髙玉ひなのさん（滝高3）

【表彰式のご案内】
日時　11月4日（土）午前10時
場所　滝上町図書館
11月8日（水）～12月8日（金）まで、文化センターの中で感想画や入賞作品の展示を行います。

小檜山博賞を受賞した滝上高校3年中山莉沙さんの作品を全文掲載します。

『ある店で見つけた本を読んでみたら。』

私は今まで読んできた本の中で一番、汐見夏衛さんの「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」という本が好きです。私はこの本の帯に目を奪われ、心惹かれ、すぐに買いました。この話は戦争の話です。私は、今まで戦争のドラマや本は悲しくなるので避けていました。しかし、この本を読んでから戦争について調べたり、見学旅行で大阪国際平和センターに行ったときも、とても興味を持って見たりすることが出来ました。この本は、特攻隊の話なので、特に特攻隊に興味を持ち、調べたり、映画やドラマを見たりするようになりました。

この本の簡単なあらすじは、少し問題児の百合が家出をし、防空壕へ行き、起きたら終戦の年の一九四五年にタイムスリップしてしまった。暑さで座りこんでいると、偶然通りかかった特攻隊員の佐久間彰に助けてもらう。そしてお互い惹かれ合うが、好きだという気持ちを伝えられないまま、彰が戦地へ征ってしまったという話です。

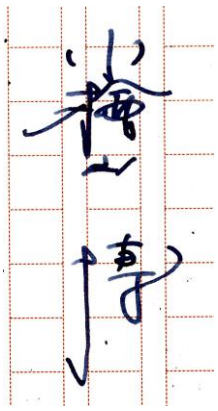
私も百合と同じ戦争のない時代に産まれたし、戦争は二度と起こしてはならないことだと教わってるし、私も思っているので、百合の気持ちがよくわかります。なので百合にとても感情移入してしまいます。正直最初は帯に書いてある「ありえないほど感情移入して大号泣」という言葉を疑っていました。しかし、何度読んでも泣けます。私が今まで読んできた小説や漫画、観てきたテレビや映画を含めても一番感情移入し、泣けました。百合が彰に何度も戦地に行かないでということや、妹みたいな存在と言わないでと言

うが、好きだという気持ちは言えていない。彰は特攻隊員として強い意志を持ち、死を覚悟していたため、直接気持ちを言わずに、百合と別れてしまった。しかし、百合と別れ、百合が現代に帰り、社会見学で訪れた特攻資料館で百合宛の手紙には彰の素直な気持ちが書かれていた。この手紙は現代に戻る前に読まずに、帰ってきたため、内容が気になっていたので、知れて良かったです。その手紙には、彰の百合に対する真っすぐな気持ちが書かれています。こんなに互いが思い合っているのに結ばれなかったのはとても悲しい結末だと思いました。資料館には、特攻隊員の写真も展示されていて、彰の写真には二輪の百合が寄り添いながら挿さっていたと書いていました。二人には寄り添い合う未来が許されなかったが、それだけ彰は百合のことを愛していたのだと悲しく、胸が締め付けられました。終章では、飛び立った後の彰の様子や気持ちが書かれていました。そこには、百合に伝えられなかった切ない思いが書いていました。それは、生まれ変わったらまた会って、今度は一緒になりたいということでした。これは一度は手紙に書いたが、自分にはそんな資格はないと思い消してしまっている。私的には残しておいてほしかったと思いました。そして彰は、敵艦めがけて急降下したが、恐怖に歪んだ米兵を見て、その人のことを考え、向きを変えて海に落ちた。最後の最後まで百合のことを考えている彰にとても感情移入してしまいました。この本は涙が止まったと思っても、ページをめくっていく内にまた次から次へと涙が流れてきます。この話はフィクションですが、戦時中に、愛する人の出陣を喜び、別れなければならなかった人が沢山いたのだと思うと非常に胸が痛みます。

最後にこの小説の続編について少し書きます。続編では、彰の生まれ変わりである涼と出会い、最終的に二人は結ばれます。ハッピーエンドだと思う人も沢山いると思います。しかし私は、彰自身と百合が結ばれてほしかったので、作者さんに彰と結ばれるエンドが良かったということを言いました。作者さんから親切に返信が届きました。作者さんもかなり悩んでいたということと、「百合と涼の中学生らしい年相応の恋を、彰が微笑ましく見守っている」ということを聞きました。私には考えられなかった考えを聞けました。この本はとても素敵な本なので、数人に勧めました。戦争に興味をしめさない人も増えていると思うので、沢山の人に読んでもらいたいです。読む人によって様々な考え方が生まれる作品だと思います。この小説に出会えて良かったです。

（スターツ出版）
２０１６年刊

以下、郷土出身作家・小檜山博さんから授与にあたってのコメントを掲載いたします。

この本の筋が現実と過去を入れ替えたりするという込み入った構成のうえ、さらに続編があるなど複雑な読み方を必要とするなか、よく読み込まれていると思います。まず、この本を読むことで自分の中に戦争はいけないという認識をしっかり捉えたことに感心します。

ぼくとしてはこの小説に続編は不要かと思いますが、中山さんが一応それに納得しつつも、いくぶん疑問を感じているようなのは、なかなかの感性と思います。中山さんの作品への入り方、内容への批判をおぼえるかたち、作者の意図の捉え方はたいへんすばらしいものです。